

第 99 回大腸癌研究会 倫理審査委員会

議事録

日 時： 令和 5 年 7 月 6 日(木) 13:00~13:30

場 所： 浜松町コンベンションホール 5F 大ホール A

現地および Zoom による Hybrid 会議

出席委員： 猪股雅史、植竹宏之、掛地吉弘、白下英史、長谷川寛、(現地参加)

池田正孝、川上祥子、間部俊明 (web 参加) (五十音順、敬称略)

欠席委員： 河内 洋 (将来構想委員会出席中のため)

委員総数 9 名中、出席 8 名で、委員会成立の定足数を満たした。

議事

- 1、 広報委員会から依頼のあった、倫理審査承認時に書類にて、「広報委員会に情報公開文書を提出すること」を指示する件に関して、メール審議にて承認されたことが報告された。
間部委員より、他の学会での研究に関する情報公開手続きはいつ頃からなされているのかとの質問があった。掛地委員より、学会主導の研究が活発化したのが、10 年程前であり、オプアウトを公開する形が始まったのが、5、6 年前から始まったと思われ、先駆けとなる学会を参考に本研究会でも開始されたと説明があった。また、植竹委員より、現在医学研究で行われている一般的な研究への協力の承諾取得や情報公開の仕組みについての説明があった。
間部委員より、一般の方が公開手続きを求めたことがあるのか、との質問があり、掛地委員より、一般の方からの公開請求はほとんどないと思われると説明があった。
間部委員より、弁護士の立場からも、このような情報公開手続きが進むことは望ましいことであるので積極的に進めてほしいとの要望があった。
- 2、 令和 5 年 1 月から令和 5 年 7 月までの間に新規申請の研究課題は無く、2 件の変更申請があったと報告された。
- 3、 間部委員より、ゲノム研究のがん治療への臨床応用の現状および、またゲノム医療では倫理面でどのような点が論点となるのかとの質問があった。植竹委員より、がんの種類によってゲノム検査およびそれによって導かれる治療が違い、大腸癌領域では、まだ有効な治療に結びつくゲノム検査が少ないが、今後新しい有効な治療に結びつく遺伝子が見つかり、検査の対象となれば、臨床応用が活発化すると思われると説明があった。掛地委員より、大腸癌領域では、家族性の疾患に関する遺伝子変異が見つかった場合、どこまで調べるのか、どこまで知らせるのか等の問題があり、これらに関しては、遺伝子委員会などの担当の委員会にて扱うことが多いと思われると説明があった。

以上
(文責：猪股)

資料 1

大腸癌研究会倫理審査委員会で承認された研究課題の研究責任者の先生へ
「情報公開文書」提出のお願い

大腸癌研究会 広報委員会
倫理審査委員会

大腸癌研究会ホームページでは、「大腸癌研究会での臨床研究について」ページにおいて、市民の皆様に向け、大腸癌研究会で行っている臨床研究に関する情報公開を行っております。

https://www.jscrr.jp/forcitizen/index_investigation.html

今般、承認された研究課題について、上記ページに情報を掲載いたしますので、以下の内容について、下記の＜提出期限＞までに広報委員会までご提出をお願いいたします。

お手数をおかけいたしますが、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

＜提出する内容＞

- ① 大腸癌研究会 倫理審査委員会の審査承認日
- ② 研究課題名
- ③ 研究責任者の氏名・所属
- ④ 研究開始日・終了予定日
- ⑤ 情報公開文書（オプトアウトの場合）

＜提出先＞

大腸癌研究会 広報委員会 jscrr_kouhou@umin.ac.jp

※メールタイトルは、「研究の情報公開（氏名）」としてください。

＜提出期限＞

大腸癌研究会 倫理審査委員会の審査承認日より 1 か月以内

以上

2023 年 7 月 6 日・7 日

第 99 回大腸癌研究会

都ホテル尼崎

大腸癌研究会 倫理審査委員会

(2023 年 1 月 27 日—2023 年 7 月 6 日)

倫理審査研究一覧

研究課題名	研究代表者	新規/再申請	審査結果
1. 結腸癌の至適切離腸管長に関する 前向き研究	防衛医科大学校 外科学講座 教授 上野 秀樹	再申請	2023 年 4 月 3 日 承認
2. 右側結腸癌のリンパ節郭清に関する多施設観察研究	東京女子医科大学 消化器・一般外科 教授 山口 茂樹	再申請	2023 年 5 月 1 日 承認